

## 不妊症の治療は夫婦一緒が有効

**Q** 三十一歳、女性。結婚して五年たちますが、まだ妊娠しません。婦人科の検査では子宮や卵巣に異常はないが、高温期が不安定とのこと。三十七歳の夫は最近の検査で精子の運動率が悪いといわれています。

**A** 女性の不妊症では脳下垂体や卵巣から出るホルモンなど妊娠に関係している種々のホルモンのバランスがくずれているときに、漢方治療が有効である。男性不妊では軽度の精子数の減少や運動率の低下などにも効果があることが確かめられている。

西洋医学で「特別の原因なし」といわれる夫婦でも漢方医学では虚弱体質や微小循環障害と診断できる場合があり、比較的容易に妊娠可能

な状態にできることが少なくない。

女性不妊に用いる漢方薬にはホルモンバランスや全身の血行をよくするため、当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）などが処方される。プロラクチン（乳せん刺激ホルモン）やテストステロン（男性ホルモンの一種）が高いときは、芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）が試みられる。妊娠の期待がストレスになっている場合は香蘇散（こうそさん）や半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）などが考慮される。

男性不妊には補中益気湯（ほちゅうえつきとう）や八味地黄丸（はちみじおうがん）などが精子の数や運動率を改善するのに有効だ。夫婦一緒に漢方薬を服用すると効果が高まるのでそろって受診されることをお勧めする。